



2017年オープンキャンパスの様子【関連記事4ページ】

公認心理師制度の発足にあたって

心理学部長 中野 倫仁



2015年9月9日(水)に議員立法により成立した公認心理師法が、2017年9月15日(金)に施行されました。本学においても、2018年4月入学生から心理学部および大学院心理学研究科において、公認心理師に適合した新カリキュラムを導入するため、準備を開始しています。また、医療系総合大学である特色を生かし、医療分野に強い臨床心理学教育を行ってきたため、カリキュラムの大幅な変更の必要はなく、円滑に移行できるものと考えています。ただ、実習施設が保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野にまたがり、実習時間が学部80時間以上、大学院270時間以上に設定されていることから、関係各位のご協力を得ながら、実習施設の開拓に努めているところでです。

公認心理師は、心理状態の観察、分析、相談、援助、教育、情報の提供などを行う専門職として、大学において心理系の教育を受けた後、大学院修士課程を修了するか、または2年以上の実務経験を経た者に受験資格が与えられます。心理系では初めての国家資格として、関係者が念願してきたものであり、今後の発展が期待できる専門職のひとつです。

現在、在籍している学生および大学院生に対しては、受験資格の特が用意されています。学生は大学を卒業後、大学院に進学し課程を修了した後で、大学院生は課程を修了した後に、国家試験の受験が可能になります。また、2018年中には第1回の国家試験が行われることになっています。

従来養成してきた臨床心理士は、主としてスクールカウンセラーとして活躍する人が多かったのですが、公認心理師は実習において保健医療分野が必須となるなど、どちらかという医療分野を重視したものになっています。本学は、従来より臨床心理士養成大学院の中では医療分野に就職する修了生が多く、公認心理師制度を実体として先取りした教育となっていました。また、公認心理師法により要請されている保健医療、福祉、教育などの関係者との連携は、北海道医療大学の重要なテーマである多職種連携そのものであることから、公認心理師養成大学として、本学こそ正に相応しいと言えると思います。

本学としては、公認心理師の新カリキュラムの整備にとどまらず、医療系総合大学としての特色を生かして、医療系科目の一層の充実にも努め、従来より実施してきた文系系系の枠を超えた文理融合教育を継承して、新時代の臨床心理学教育を実践していくこととなります。心理学部が2002年、心理学研究科が2004年に発足し、多くの卒業生・修了生を社会に送り出してきました。現在の臨床心理学の教員18名のうち、5名がOB・OGとなっており、後継者も順調に育ってきています。臨床心理学教育は必ずしも公認心理師の養成のみを目的とするものではありませんが、新国家資格の発足を本学にとっての新たな一歩を進めるものとして歓迎したいと思います。

CONTENTS

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 公認心理師制度の発足にあたって | 1 |
| 新任教員・昇任教員紹介 | 2 |
| 2018年春、臨床心理学科では、「公認心理師」の国家資格取得に対応したカリキュラムをいち早くスタートします！ 小学生を対象とした夏休みイベントを開催しました 学内合同就職相談会を開催しました | |
| 短期研修レポート | 3 |
| アルバータ大学(カナダ)語学研修レポート | |
| OPEN CAMPUS 2017 開催報告 | 4 |
| ものづくり学校祭2017 参加レポート | 5 |
| 2018年度入試結果速報 | 6 |
| 札幌丘珠高等学校との高大連携授業を実施 | |
| 地区別懇談会を開催 | 7 |
| 後援会東北支部セミナーを開催 第22回日本在宅ケア学会学術集会が開催されました | |
| 私の学生時代 | 8 |
| OG訪問【言語聴覚療法学科】 | 9 |
| STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS | 10-11 |
| TOPICS | 12 |
| EDITOR'S NOTE | |

新任教員・昇任教員紹介

新任教員



歯学部教授
(生体機能・病態学系〈歯科麻酔科学〉)
照光 真(てるみつ まこと)

早稲田大学第一文学部心理学専攻卒業。新潟大学歯学部歯科学科卒業。同大学院歯学部総合研究科口腔生命科学専攻修了。CBSJ—出版。新潟大学歯学部総合研究科歯学部歯機能研究センター准教授。同歯学部総合研究科歯科麻酔科学分野准教授等を経て、本学就任。歯学博士。



大学教育開発センター講師
リハビリテーション科学部講師(作業療法学科(生物学))
西出 真也(にしで しんや)

北海道大学歯学部歯科学卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。北海道大学歯学部附属病院医員(研修医)。札幌市の水産獣医歯科助手専門学校非常勤講師。北海道大学大学院医学研究科助教、同大学院医学研究科助教を経て、本学就任。歯学博士。

| | | |
|--------------|------------------------------|--------|
| 看護福祉学部 | 助教(看護学科(地域保健看護学・地域看護学)) | 増田 悠佑 |
| | 助教(看護学科(臨床看護学)) | 三津橋 梨絵 |
| | 助教(臨床福祉学科(社会福祉学講座)) | 片山 寛信 |
| 心理科学部 | 助教(臨床心理学(臨床心理学:保健医療分野の実習教育)) | 関口 真有 |
| | 助教(臨床心理学(臨床心理学)) | 西郷 達雄 |
| リハビリテーション科学部 | 助教(作業療法学科(身体障害作業療法学)) | 桜庭 聡 |

昇任教員



大学教育開発センター教授
心理科学部教授(臨床心理学(多職種連携))
安部 博史(あべ ひろし)

東京学芸大学教育学部障害児教育教員養成課程卒業。筑波大学大学院博士課程心理学研究科心理学専攻修了。宮崎医科大学医学部医学科臨床神経科学講座精神医学分野助教。九州ルーテル学院大学人文学部心理学専攻准教授。本学大学教育開発センター、心理科学部臨床心理学准教授等を経て、教授昇任。心理学博士。



心理科学部准教授
(臨床心理学(医療領域の臨床心理学))
本谷 亮(もとや りょう)

本学心理科学部臨床心理学卒業。同大学院心理科学研究科臨床心理学専攻修士課程修了。同博士課程修了。札幌市第1種非常勤職員臨床心理技術者。福島県立医科大学医療人養成・支援センター助教。本学心理科学部臨床心理学講師等を経て、准教授昇任。臨床心理学博士。

配置替



歯学部教授
(生体機能・病態学系(口腔再生医学))
村田 勝(むらた まさる)

北海道大学歯学部歯科学卒業。同大学院歯学研究科博士課程修了。本学歯学部口腔外科学第二講座講師。同歯学部生体機能・病態学系顎顔面口腔外科学分野准教授等を経て、教授昇任。医学博士。



歯学部講師
(口腔構造・機能発育学系(歯科矯正学))
岡山 三紀(おかやま みき)

本学歯学部歯科学卒業。同大学院歯学研究科歯学専攻博士課程修了。本学特別研究員、同歯学部助教を経て、講師昇任。歯学博士。

NEWS

2018年春、臨床心理学では、「公認心理師」の 国家資格取得に対応したカリキュラムをいち早くスタートします!

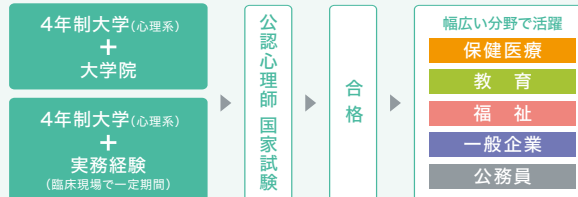
(※)2017年11月現在、新カリキュラムの編成、申請などの準備を進めています。

心理科学部臨床心理学の卒業生は、心の学びを生かして多様な分野で活躍しています。近年では精神医療への関心の高まりや超高齢社会の進展に伴い、保健医療分野における心理職の活躍が強く求められています。

そこで誕生したのが、心理職初級国家資格となる「公認心理師」です。同資格を取得して病院などで働く心理職に対しては、患者さん、他の医療スタッフ、そして社会からの期待もいっそう高まっていくことでしょう。

本学でも医療系総合大学ならではの、充実した保健医療分野の学びをさらに発展させ、公認心理師の資格取得に対応したカリキュラムを2018年度から導入します。保健医療分野で活躍できる人材はもちろんのこと、教育、福祉、産業・労働、司法・法務、警察などの領域でも、臨床現場で必要とされる確かな実践能力を備えた人材を育成していきます。

《公認心理師になるまで》



※1 公認心理師カリキュラムに対応した大学を卒業する必要があります。本学は2018年度から大学、大学院とも対応します。
※2 国家試験の受験資格を得るには、大学の心理学系学科を卒業後、心理学系大学院等を修了するか、一定期間以上の実務経験を経る必要があります。

小学生を対象とした 夏休みイベントを開催しました

小学校の夏休み期間中(8月2日・4日・8日)に、「顕微鏡実験〜がん幹細胞を見つけ出し、やっつける」「味覚実験〜レモンは甘いか」「薬剤師・看護師職業体験〜しごと体験メディカル・キッズ」の3つのイベントを開催し、合わせて68名の方にご参加いただきました。どのイベントでも参加者の真剣な眼差しや笑顔が見られ、盛会裏に終了しました。

本学では2017年4月に地域連携推進センターが発足し、医療・保健・福祉に係る地域の「知の拠点」として、積極的に地域との連携を図り、広く地域に開かれた大学を目指しています。今回のイベントのほかにも、一般向け、医療職向けのイベントを開催していますので、皆様のお越しをお待ちしています。



味覚実験



顕微鏡実験

学内合同就職相談会を 開催しました

10月6日(金)、言語聴覚療法学科・理学療法学科・作業療法学科を対象とした「学内合同就職相談会」を開催しました。

当日は北海道内外の病院・施設・公務等団体より人事担当の方々が多数来学され、学生に対して就職に関する説明や相談等をしていただきました。

参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、活発に相談を行うなど、終始賑わいをみせていました。

本学では学部ごとにはほぼ毎月、就職ガイダンス等を行い、学生の卒業後の確実な就職にむけて、教職員協働のうえ、きめ細やかな指導をしています。本学各学部・学科に関わる職種の求人お申し込みについては、本学ホームページをご参照ください。

[参加団体] 118団体

- 病院 ● 施設
- 公務 ほか

就職関連ホームページ

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/syusyoku/index.html>



短期研修レポート

本学学生のみならず、
留学生同士でも活発な交流が行われました。

1 台北医学大学(台湾)

[薬学部]

期間：8月1日(火)から28日(月)

台北医学大学薬学部の張 耀元さんが来日し、約4週間、本学薬学部で研修を行いました。研修ではアインファーマシーズ、JCHO札幌北辰病院、札幌東徳洲会病院等の学外施設訪問や、本学のオープンキャンパスを体験する等、様々なプログラムに参加しました。

8月25日(金)の報告会には、多くの教員やサポート学生が参加し、張 耀元さんとの別れを惜しんでいました。



左から張 耀元さん、和田 啓爾 薬学部長

[歯学部][看護福祉学部]

期間：7月3日(月)から14日(金)

台北医学大学歯学部及び看護福祉部の学生が本学を訪れ、約2週間の研修を行いました。

歯学部では、陳 亮潔さん、陳 裕雲さん、張 哲瑀さんの3名、看護福祉学部では、柯 亮卉さん、巫 函函さん、蔡 馨儀さん、陳 逸軒さん、嚴 紹維さんの5名が参加し、学内のみならず、学外の様々な施設にて研修を行いました。また、本学学生とともに講義を受講したり、昨年度台北医学大学の研修プログラムに参加した学生によるサポート等、学生交流においても大変有意義な研修となりました。



歯学部



看護福祉学部

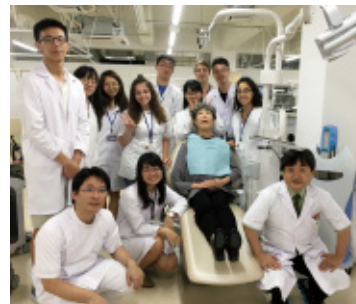
2 中山大学(中国)

[歯学部]

期間：7月11日(火)から8月4日(金)

中山大学より、晏 潼さん、許 劍萌さん、蔣 啓明さん、任 劍寒さんの4名が来日し、歯学部短期研修に参加しました。

研修は約4週間、本学歯学部5年生の臨床実習に参加したり、各研究室で実験を行ったりと充実した研修となりました。

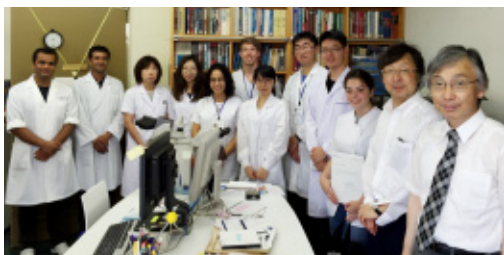


3 極東国立総合医科大学(ロシア)

[歯学部] 期間：7月10日(月)から7月21日(金)

極東国立総合医科大学のエリザヴェータ・スホベイさんが昨年引き続き本学の交換プログラムに参加し、約2週間歯学部にて研修を行いました。

研修初日には極東国立総合医科大学と本学との合同シンポジウムに参加し、母校の教授たちの講演に耳を傾けました。



4 ストラスブール大学(フランス)

[歯学部] 期間：7月3日(月)から9月15日(金)

フランスのストラスブール大学からManal Chkiliさんと Igor Kirchhoffさんが来日し、約2カ月半歯学部短期研修に参加しました。

本学滞在中は小児歯科学分野の齊藤正人教授の指導の下、マラッセ上皮遺残細胞を用いた基礎研究に従事していました。マラッセ上皮遺残細胞は、歯が形成される過程で分離された上皮で多能性を有することが報告されていますが、多能性の誘導過程は不明です。臨床試験中のアルツハイマー治療薬を添加することにより、マラッセ上皮遺残細胞の未分化間葉細胞マーカーが誘導されることが明らかになりました。これらの研究結果は、同分野の大学院生が引き継ぎ研究を行い発表する予定です。

研修期間中は研究活動だけでなく、ロシア、台湾、中国からの短期留学生と共に本学歯学部5年生の臨床実習への参加や大学院での研修等、充実したプログラムとなりました。



アルバータ大学(カナダ)語学研修レポート

8月5日(土)から25日(金)の21日間、12名の学生(看護福祉学部8名、薬学部1名、リハビリテーション科学部1名、歯学部附属歯科衛生士専門学校2名)がカナダのアルバータ大学語学研修プログラムに参加しました。

研修は午前中にアルバータ大学内で英語を学び、午後からは学内外で病院見学、福祉施設訪問、アルバータ州議事堂見学ツアー、トウモロコシ畑迷路、歴史村散策等様々なアクティビティを体験しました。2泊3日のロッキーツアーでは、壮大な自然の中で山登りやカヌーに挑戦し、カナダの大自然と美しい風景を大いに満喫しました。

カナダ滞在中、学生はカナダ人の家庭でホームステイをし、カナダの生活や料理、文化の違いを体験し、充実した3週間を過ごしました。



OPEN CAMPUS 2017 開催報告

2017年のオープンキャンパスは、6月18日(日)、8月5日(土)・6日(日)、9月16日(土)の全4回開催し、合計2,488名(内生徒数1,481名)とたくさんの方にご参加いただきました。当日は、大学や入試の概要説明のほか、学部学科ごとのプログラムに分かれて体験実習や模擬講義、施設見学を行いました。

※以下は、各学科にて実施した体験実習の一部です。

薬学部 [薬学科]

風邪のひき始めなどに服用する、「葛根湯づくり」にチャレンジ。何種類もの生薬を配合してパックに詰め、煮出して味見。自分でつくった葛根湯の味はいかに…?



歯学部 [歯学科]

キャンパス内にある「歯科クリニック」の見学やむし歯削りの体験学習を実施。在学生在が案内しながら参加者からの勉強や学生生活に関する質問にお答えしました。



看護福祉学部 [看護学科]

ヒト型フィジカルアセスメントモデル「physiko (フィジコ)」を使って、聴診、脈拍測定などを体験。実際に聞こえる心音に、ちょっとドキドキ…。



看護福祉学部 [臨床福祉学科]

特別な装具を着けて、高齢者や障がいのある方々の生活を疑似体験。身体が不自由だと日常生活はどのくらい大変なのか、また、どのようなサポートが必要なのか、感じていただきました。



心理科学部 [臨床心理学科]

心理士やスクールカウンセラーの経験も豊富な先生がその仕事内容を分かりやすく教えながら行う模擬講義や、在学生との懇談をしていただきました。



リハビリテーション科学部 [理学療法学科]

理学療法士が使う専門機器は、筋肉の俊敏性や持久力、体重に対する筋力バランスなどまで測定可能。友だちと比べるなど、楽しく体験していただきました。



リハビリテーション科学部 [作業療法学科]

病院や福祉施設で実際に行われている作業療法と、また、そのような療法を行う理由や意義をご紹介します。その中から、参加者の皆さんにはミサンガづくりを楽しく体験していただきました。



リハビリテーション科学部 [言語聴覚療法学科]

言語聴覚士の仕事内容の説明や本学卒業による講演のほか、聴力検査や、音響分析、舌の筋力の測定などを体験していただきました。



歯学部附属歯科衛生士専門学校 [歯科衛生科]

実習室の、本格的な歯科ユニットを使用して歯の模型をつくるための歯型の取り方や、超音波スクレーラーを使った歯石取りを体験していただきました。



参加者アンケート結果

すべてのオープンキャンパスにおいて、参加者アンケートを実施しました。

Q. 本学(校)のどういうところに魅力を感じましたか? (複数回答)

1位 医療系総合大学である 67.2%
2位 目指す資格を取得できる … 37.6% **4位 国家試験成績 … 29.4%**
3位 カリキュラム・授業内容 … 30.4% **5位 最新の実習設備が完備されている … 29.0%**

Q. オープンキャンパスの満足度は?

95% (95%の人が満足・少し満足と回答)

参加者の感想

- 知りなかった入試情報も知ることができ、実験も楽しかったので参加して良かった。
- 誘導しながら紹介してくれたり、入試問題の解説をしてくれて楽しかったです。先生と学生の距離が近く、他の大学にはない特色だと思いました。
- 学生さんが優しい人ばかりで親しみやすかった。コミュニケーション論の講義が面白かったです。
- 受験が近いので、入試問題の解説や、志望理由、面接について直接先生や先輩に聞けて良かったです。今日のことを受験に生かしていきたいです。
- ユニークな先輩方、設備の整った環境に大変魅力を感じました。ランチもおいしかったです。
- 3回目の参加でしたけど、とても楽しくよかったです。入学するつもりです。
- 在学生在がずっと側にいて話をしてくれたので、学校生活についてたくさん知ることができた。
- 講義の内容が興味深く、とても面白かった。昼食中に在学生の話を聞くことができて良かった。
- 大学祭も楽しめたり、学校の雰囲気もわかって良かった。他大学との違いを知れて良かった。

札幌市主催 ものづくり The Manufacturing School Festival 学校祭2017

参加
レポート

REPORT

7月31日(月)、市立札幌開成中等教育学校において札幌市主催で開催された「ものづくり学校祭2017」に参加しました。同イベントは、約30のものづくりに携わる企業、大学等が出席し、市内の中高生約500人を対象に「ものづくり」に触れる機会を提供する体験型のイベントで、札幌市がものづくり企業、大学等とのコラボで行う初の取組として開催されました。

本学は「医療現場のものづくり～義肢装具編～」と題し、株式会社馬場義肢製作所のご協力の下、義肢装具の製作

方法に関する講演をはじめ、本学作業療法学科の澤村大輔講師らによる義指の製作体験、義肢装具の装着体験を行いました。

普段なかなか体験できない内容ということもあり、参加者は熱心に説明を聴き、質問をしていました。また、義足を装着されている方から直接お話を聞き、実際に自分も装着してみることによって、義肢装具の仕組みや役割を理解することができ、とても有意義な時間を過ごしたようでした。

義指製作体験

シリコンを使って指の型を製作。
希望者には、型に石膏を詰めて製作した石膏の義指をプレゼントしました。



① 離型剤を塗る

型を作成したい指を決め、完成したものを剥がしやすくするための離型剤を指全体にまんべんなく塗ります。



② シリコンを混ぜる

青色・白色それぞれのシリコンを3cm程、平行になるように出し、外側から内側へ中心に集めるように混ぜます。この時、広げ過ぎや時間をかけすぎると固まってしまうので注意です。



③ 指に塗る

シリコンが完全に混ざったら、離型剤を塗った指に塗っていきます。指に「のせる」様なイメージで、隙間がないよう、薄い部分がないようにできるだけ均一に塗ります。



④ 指から外す

型を作る指にシリコンを塗り終えたら、乾くのを待ちます。少し型を圧迫することで型の一部が皮膚からはがれ、指と型の間に隙間ができたなら剥がすタイミングです。



⑤ シリコンの型が完成

剥がし終わったら、これで指の型は完成です。次はこの完成した型に石膏を詰めて固め、⑥の写真のような義指をつくれます。



⑥ 石膏の指が完成

指紋や爪の形状、関節部分のしわなど、細かい部分まできれいに再現されたものが出来上がりました。参加者は義指の完成度の高さに大変驚いていました。

義肢装着体験

実際の義肢に触れていただき、義肢の役割や操作方法について説明を行いました。
ほとんどの参加者が希望して義肢の装着体験をされていました。



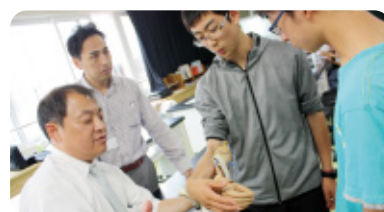
① 義肢の説明

澤村講師は参加者に実際の義手に触れていただく機会を設け、その後に義肢の役割や操作方法について説明を行いました。興味を持って熱心に質問をしてくる参加者もいました。



② 上腕義手装着体験

こちらは肩義手と呼ばれるもので肩甲骨の動きでひじの曲げ伸ばしや物を掴む、離すことができます。スムーズに動かすためには時間をかけて練習する必要がありますので、参加者も操作にはかなり苦戦していました。



③ 筋電義手装着体験

こちらの義肢は、腕(ひじから下)に装着するもので、腕の筋肉が発する微弱な電気信号をセンサーで感知することで手を動かすものです。自分の腕の筋肉を利用して義手をコントロールします。

2018年度 入試結果速報

北海道医療大学

AO方式・一般推薦・指定校特別推薦で志願者は合計427名

AO方式入試は、全体で193名の志願があり、96名が合格、実質競争倍率は2.0倍となりました。

一方、11月12日(日)の推薦入試は本学当別キャンパスをはじめ、帯広、北見、函館、仙台、東京、大阪、那覇の全国8会場で行われました。志願者総数は111名(指定校特別推薦除く)で、78名が合格、実質競争倍率は1.4倍でした。

編入学I期試験は、全体で14名の志願があり、7名が合格、実質競争倍率は2.0倍となりました。編入学II期試験は、薬学部と歯学部は1月30日(火)、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部は1月31日(水)に、それぞれ札幌、東京、大阪の3会場で行われます。

■2018年度 編入学試験(I期)結果 ()内は前年度実績

| 学部・学科名 | 入試形態 | 募集定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質競争倍率 |
|-------------------------|------|----------|--------|--------|-------|----------|
| 薬学部 | 社会人 | 7(7) | 2(1) | 2(1) | 1(0) | 2.0(-) |
| | 一般 | | 5(6) | 5(6) | 3(2) | 1.7(3.0) |
| 歯学部 | 2年次 | 若干名(若干名) | 0(2) | 0(2) | 0(2) | -(1.0) |
| | 3年次 | | 0(1) | 0(1) | 0(0) | -() |
| 看護福祉学部 ●看護学科 | 社会人 | 6(6) | 0(1) | 0(1) | 0(1) | -(1.0) |
| | 一般 | | 1(0) | 1(0) | 1(0) | 1.0(-) |
| | 指定校 | | 0(0) | 0(0) | 0(0) | -() |
| ●臨床福祉学科 | 社会人 | 6(6) | 1(2) | 1(2) | 1(2) | 1.0(1.0) |
| | 一般 | | 0(0) | 0(0) | 0(0) | -() |
| | 指定校 | | 0(0) | 0(0) | 0(0) | -() |
| 心理科学部 ●臨床心理学科 | 社会人 | 2(2) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | -() |
| | 一般 | | 0(0) | 0(0) | 0(0) | -() |
| リハビリテーション科学部 ●理学療法学科 | 社会人 | 3(3) | 0(0) | 0(0) | 0(0) | -() |
| | 一般 | | 2(0) | 2(0) | 1(0) | 2.0(-) |
| | 指定校 | | 0(0) | 0(0) | 0(0) | -() |
| ●作業療法学科 | 社会人 | 3(3) | 0(1) | 0(1) | 0(1) | -(1.0) |
| | 一般 | | 0(1) | 0(1) | 0(1) | -(1.0) |
| | 指定校 | | 0(0) | 0(0) | 0(0) | -() |
| ●言語聴覚療法学科 | 社会人 | 7(7) | 0(1) | 0(1) | 0(1) | -(1.0) |
| | 一般 | | 3(1) | 3(1) | 0(1) | -(1.0) |
| 合計 | | 34(34) | 14(16) | 14(16) | 7(10) | 2.0(1.6) |

■2018年度 AO方式入試・推薦入試結果 ()内は前年度実績

| 学部・学科名 | 入試形態 | 募集定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質競争倍率 |
|-------------------------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 薬学部 | AO方式 | 16(17) | 33(38) | 33(38) | 19(22) | 1.7(1.7) |
| | 一般推薦 | 17(17) | 27(19) | 27(19) | 27(17) | 1.0(1.1) |
| | 指定校特別推薦 | 29(28) | 30(53) | 30(53) | 30(53) | 1.0(1.0) |
| 歯学部 | AO方式 | 20(20) | 6(11) | 6(11) | 6(11) | 1.0(1.0) |
| | 一般推薦 | 8(8) | 1(0) | 1(0) | 1(0) | 1.0(-) |
| | 指定校特別推薦 | 8(8) | 3(6) | 3(6) | 3(6) | 1.0(1.0) |
| 看護福祉学部 ●看護学科 | AO方式 | 6(6) | 48(43) | 48(43) | 10(11) | 4.8(3.9) |
| | 一般推薦 | 16(16) | 38(49) | 38(49) | 21(19) | 1.8(2.6) |
| | 指定校特別推薦 | 16(16) | 28(30) | 28(30) | 28(30) | 1.0(1.0) |
| ●臨床福祉学科 | AO方式 | 15(15) | 8(8) | 8(8) | 7(8) | 1.1(1.0) |
| | 一般推薦 | 10(10) | 1(0) | 1(0) | 1(0) | 1.0(-) |
| | 指定校特別推薦 | 14(14) | 16(13) | 16(13) | 16(13) | 1.0(1.0) |
| 心理科学部 ●臨床心理学科 | AO方式 | 10(10) | 13(12) | 13(12) | 12(10) | 1.1(1.2) |
| | 一般推薦 | 10(10) | 2(5) | 2(5) | 2(5) | 1.0(1.0) |
| | 指定校特別推薦 | 10(10) | 13(13) | 13(13) | 13(13) | 1.0(1.0) |
| リハビリテーション科学部 ●理学療法学科 | AO方式 | 10(10) | 43(39) | 43(39) | 15(12) | 2.9(3.3) |
| | 一般推薦 | 10(10) | 21(31) | 21(31) | 14(16) | 1.5(1.9) |
| | 指定校特別推薦 | 10(10) | 14(15) | 14(15) | 14(15) | 1.0(1.0) |
| ●作業療法学科 | AO方式 | 5(5) | 20(21) | 20(21) | 8(9) | 2.5(2.3) |
| | 一般推薦 | 5(5) | 14(14) | 14(14) | 8(8) | 1.8(1.8) |
| | 指定校特別推薦 | 5(5) | 5(8) | 5(8) | 5(8) | 1.0(1.0) |
| ●言語聴覚療法学科 | AO方式 | 12(12) | 22(22) | 22(22) | 19(19) | 1.2(1.2) |
| | 一般推薦 | 5(7) | 7(6) | 7(6) | 4(5) | 1.8(1.2) |
| | 指定校特別推薦 | 10(8) | 14(12) | 14(12) | 14(12) | 1.0(1.0) |
| 合計 | AO方式 | 94(95) | 193(194) | 193(194) | 96(102) | 2.0(1.9) |
| 一般推薦 | 81(83) | 111(124) | 111(124) | 78(70) | 1.4(1.8) | |
| 指定校特別推薦 | 102(99) | 123(150) | 123(150) | 123(150) | 1.0(1.0) | |
| | | 277(277) | 427(468) | 427(468) | 297(322) | 1.4(1.5) |

歯学部附属歯科衛生士専門学校

AO方式入試に27名の受験

本年度、AO方式入試には現在までのところ27名の受験があり、全員が合格、実質競争倍率は1.0倍でした。一方、11月12日(日)の編入学試験は本学当別キャンパスをはじめ、旭川、帯広、函館、東京、大阪の全国6会場で行われました。1名の志願があり、1名が合格、実質競争倍率は1.0倍となりました。一般前期入試[B日程]は、1月31日(水)に札幌、旭川、帯広、北見、函館の全道5会場で行われます。

■2018年度 AO方式入試・推薦入試結果 ()内は前年度実績

| 学科名 | 入試形態 | 募集定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質競争倍率 |
|-------|------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 歯科衛生科 | AO方式 | 30(20) | 27(27) | 27(27) | 27(27) | 1.0(1.0) |
| | 推薦入試 | 10(17) | 0(1) | -(1) | -(1) | -(1.0) |

■2018年度 編入学試験結果

| 学科名 | 入試形態 | 募集定員 | 志願者数 | 受験者数 | 合格者数 | 実質競争倍率 |
|-------|------|----------|------|------|------|--------|
| 歯科衛生科 | 2年次 | 若干名(若干名) | 1 | 1 | 1 | 1.0 |

札幌丘珠高等学校との高大連携授業を実施

7月18日(火)、19日(水)実施

今年度1回目の高大連携授業は、3年生の数理フィールド看護コース22名を対象に実施しました。18日(火)は高齢者体験で視覚、聴覚、味覚、意欲の老化を学ぶとともに、車いすでの坂道移動、段差の上り下り、溝の移動等の演習で介助体験をしました。高齢者の身体機能を理解し、高齢者が少しでも社会とかわかれるような温かな支援について学び、福祉に対する興味を深めました。19日(水)はスクールソーシャルワーカーに係る講義を受講するとともに、自己と他者との価値観の違いについて「減びゆく地球からの脱出計画」をテーマにグループワークを行い、グループ全員が納得できるまで十分に話し合いを行いました。2日間ともに、活発な授業参加がみられ有意義な時間を過ごしたようでした。



8月28日(月)、29日(火)実施

2回目は、前回参加した22名に加え、同じく3年生の生物選択16名を対象に実施しました。看護コースの授業では、「看護って何だろう?」をテーマとして看護ケアの根本「手と目で見て、護る」ことを理解し、バイタルサイン測定等のフィジカルアセスメントをはじめ、衛生的な手洗いについて演習を通じて学びました。生物選択の授業では、「耳垢遺伝子の解析」をテーマに自分の細胞や玉葱からDNAを採取する実験を行い、遺伝学とゲノムの構造や遺伝性疾患の最先端について学びました。アンケートには「普段と違う学び方で楽しかった」「手洗いなど実技的なことが非常に楽しく、とても興味がわいた」といった回答が見受けられるなど、参加された生徒の皆さんは有意義な時間を過ごしたようでした。



地区別懇談会を開催

多数のご出席ありがとうございました。

今年度の地区別懇談会は、10月14日(土)から11月5日(日)までの期間、全国16地区18会場(右表参照)で開催し、1,000組1,422名の保護者の皆様にご出席いただきました。(出席率28.7%)

各会場では、総会(後援会・学園役員あいさつ/学園動向報告)、学部・学校別懇談会(現況報告、国家試験・就職関連動向報告)、全体懇談会、個別面談(学生生活全般に係るご相談)を実施し、特に、担当教員との熱心な個別相談が行われていました。

後援会は、学生のサポート役、保護者の皆様と卒業生、学園をつなぐパイプ役として、また、学園のけん引役として組織の強化、地区支部の活性化、学生生活関連助成、同窓会活動支援等を柱とし、学生生活における快適な環境をつくることを大きな目的として事業活動を推進しています。

地区別懇談会は、後援会が「保護者の皆様と学園をつなぐ貴重な架け橋」として最も力を入れている事業活動のひとつであり、皆様により一層ご満足いただけるよう、内容の更なる充実に向け、今後も改善を図って参りますので、温かいご支援、ご理解とご協力を賜り、来年度もぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。



■ 総会



■ 個別相談

| 開催地 | 開催日 | 出席者数 | |
|-----|-----------|--------|------|
| | | 大学・大学院 | 専門学校 |
| 仙台 | 10月14日(土) | 21組 | 1組 |
| 名古屋 | 10月15日(日) | 18組 | — |
| 大阪 | 10月14日(土) | 21組 | — |
| 那覇 | 10月15日(日) | 10組 | — |
| 旭川 | 10月15日(日) | 78組 | 1組 |
| 釧路 | 10月21日(土) | 60組 | 1組 |
| 帯広 | 10月22日(日) | 59組 | 5組 |
| 青森 | 10月21日(土) | 35組 | 1組 |
| 苫小牧 | 10月22日(日) | 32組 | 2組 |
| 札幌 | 10月29日(日) | 454組 | 7組 |
| 東京 | 11月4日(土) | 28組 | — |
| 北見 | 11月5日(日) | 46組 | 2組 |
| 盛岡 | 11月4日(土) | 15組 | — |
| 函館 | 11月5日(日) | 87組 | — |
| 広島 | 11月4日(土) | 4組 | — |
| 福岡 | 11月5日(日) | 12組 | — |
| 小計 | | 980組 | 20組 |
| 合計 | | 1,000組 | |

後援会東北支部セミナーを開催

10月20日(金)、青森国際ホテルにおいて「後援会東北支部セミナー」が開催されました。セミナーには後援会の川元裕史東北支部長及び林則幸道南支部長をはじめ、東北支部所属の卒業生や県内の高校生、一般の方など、総勢58名が出席されました。

このセミナーは、「短命県返上!医療セミナー 今、知っておきたい!最新がん予防」と題して浅香正博学長による講演が行われ、その後の懇談会では、浅香学長を交え、卒業期や学部を超えた卒業生同士の交流が終始和やかに行われていました。



第22回日本在宅ケア学会学術集会在開催されました

7月15日(土)、16日(日)の2日間、北星学園大学において、本学看護福祉学部 工藤禎子准教授が学術集会長を務めた第22回日本在宅ケア学会学術集会在開催されました。

北海道では初の開催で、「地域包括ケアにおけるセーフティ・マネジメント」をメインテーマに、地域包括ケアにおける自助・互助・共助・公助を考えることを柱とした企画とし、集会長講演、シンポジウム3件、市民公開講座2題、特別講演2題、交流集会4題、ワークショップ2題、ラウンドテーブル2件、ランチョンセミナー5件、研究発表139題、学会委員会企画などを行いました。

当日は、北海道では100年に一度の酷暑と大雨に見舞われましたが、学術集会参加者837名、市民公開講座参加者(2日間計)379名、延べ1,216名にご参加いただき、過去最大の参加者数を記録し、盛会裏に終了することができました。参加者からは、「メインテーマの「地域包括ケアにおけるセーフティ・マネジメント」をめざした一貫した企画であった」、「在宅における安心、安全を支える知識と体制を学び合う機会となった」等のお声をいただき、本学の地域包括ケアセンター開設などの在宅ケア推進の活動に対しても、期待が寄せられていました。また、学部を超えた共同研究や、本学の修了生、卒業生の研究報告と交流の機会ともなりました。



私の学生時代

薬学部
薬学科

教授 齊藤 浩司



私の学生時代…もう40年以上も昔のこととなり、記憶に残る思い出もまさにセピア色です。まず思い浮かぶのは、親や友達と過ごしたかけがえのない時間、そしてわたしの人生を変えてくれた二人の恩師、有田隆一先生と宮崎勝巳先生のお姿です。

真面目に勉強しなかった私は超低空飛行で北海道大学理類から薬学部に進みました。薬学部を選んだのは、卒業後には薬剤師として郷里の福島県いわき市に戻り、苦勞をかけ続けてきた両親に少しでも孝行したいという気持ちが強かったからでした。学部移行時の面談で有田先生にお会いし、「折角薬学部に来ることができたのだから、これまでの自分を反省して頑張りなさい」と諭されました。有田先生のお話に深い感銘を受けた私は、「よし、これからは心を入れ替えて努力し、研究室は絶対に有田先生の薬剤学に行こう」と一念発起したのも

の、相変わらずの怠け癖は解消されず、墜落寸前の状態で何とか進級していきました。

4年次4月の研究室配属で、希望した薬剤学研究室は人気が高く、配属枠を大幅に上回る希望者が集まりました。くじを引く順番はじゃんけんで決めることになりましたが、私は負けに負けて結局順番は最後、すなわち、己の運命を他人に委ねるしかなくなりました。しかし、幸運にも最後の当たりくじは私の上に舞い降りてきました。喜びすぎたせいか(?)、私は配属決定の翌日発熱し休んでしまいました。実は薬剤学研究室では、その4月から有田先生が医学部教授として病院薬剤部に移られたのに伴い、4年生のうち2名がそちらで卒業研究の指導を受けることになりました。翌々日に研究室に顔を出すかと私が病院薬剤部に行くことに決まっていました。予想外の事態に戸惑いながら、その日の午後、病院薬剤部に挨拶に行った私を雷鳴のような大きな声で「良く来た」と迎えてくれたのが宮崎先生でした。有田先生、宮崎先生のご指導の下



学部移行の前に親友たちと行った然別湖キャンプ。オショロコマが禁漁であることを知らずに皆で釣り糸を垂れ、監視員に厳重注意されました。前列左が私。

で研究の面白さを知った私は、人が変わったように卒業研究にのめり込みました。私はそこで覚醒した(?)と今でも思います。

卒業近くになり、薬剤師国家試験に合格することを絶対条件として、卒業後北海道大学病院でもう少し勉強させていただくことになりました。私は国家試験合格を自分の可能性への再挑戦と位置付け、これまでの遅れを一気に取り戻すべく文字通り不眠不休で国家試験の勉強に取り組みました。ここまでやれるかと自分で自分に驚くくらいでした。結果は一発合格となり、以後の人生に繋がっていきました。

両先生はすでにこの世を去られましたが、お二人から頂いた無言の教え「その人を育てようと思ったら、その人を信じ、見守ること」。これは北海道医療大学での教員となった以後も自分の大きな支えになっています。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は齊藤 浩司教授と真島 理恵講師のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私の学生時代

心理科学部
臨床心理学科

講師 真島 理恵



1998年に北海道大学文学部に入学しました。入学時点では、卒業後の進路として研究職はおろか、大学院進学は全く考えておらず、公務員志望でした。当時は必修科目が少なく、かなり自由に履修科目を選択できたので、心理学以外にも、社会学や文学、民俗学など、色々な個性的な授



学部の卒業式に、恩師と撮影した写真。左が私。

業を選んで受けられるのが楽しく、新鮮でした。授業のない時間に友達と学内でパフェを食べたりして、「大学生になったんだなあ」と実感して嬉しくなったりしていたのも覚えています。

2年生からは、社会心理学の講座に所属しました。このときは「なんとなく面白そう」という程度の興味から選んだだけだったのですが、その後、ゼミでの議論に参加し、教員や大学院生とともに研究を進める中で、「新たなものの見方に気づき、目から鱗が落ちる」という経験や、議論の中でアイデアを発見する「知的な興奮」というものを初めて経験し、研究の面白さにはまっていきました。

3年生の中旬くらいからは、授業や部活のないときは研究室に向かい、実験準備や分析などを行う毎日になりました。卒論研究に取り組みはじめて以降は、ほぼ毎日研究



はじめて英語で口頭発表してるところ。とても緊張しています。

室で過ごすのが日常になり、もう少し研究をしてみたい、という思いから大学院進学を決めました。大学院生時代も朝から晩まで研究室にいる生活スタイルで、実験や論文提出前には研究室に泊まりこんでいました(修士論文執筆の時期は泊まりが多くなり、夜中の眠気覚ましに院生同士でやっていた卓上ホッケーゲームがかなり上達しました)。全体として、良くも悪くも研究漬けの学生時代だったと思います。今思えば、苦勞もありつつも、学生時代は好きなことにのめりこめる贅沢な時期だったように感じます。現在学生の皆さんにも、「せっかくの学生時代、のめりこめる何かを見つけて楽しんでほしいな」と思っています。

OG訪問

今回訪れたのはJR手稲駅北口にある大規模病院、本学卒業生が多数活躍している手稲溪仁会病院です。卒業後3年目の言語聴覚士(ST)の山城さんに、札幌西エリアの基幹病院として急性期総合医療と専門医療を提供する同院での仕事の面白さを伺いました。

手稲溪仁会病院(札幌市) 言語聴覚士

山城 遙さん

(心理科学部言語聴覚療法学科* 2015年3月卒業)

* 2015年度よりリハビリテーション科学部言語聴覚療法学科



高2、言語聴覚士との出会い。

「看護師の母の影響で、気づいた時には看護師になろうと思っていました」という山城さん。高校2年生の時に言語聴覚士(ST)という職業を知りました。脳出血で入院中の祖父を見舞った際、担当STが「見学する?」と声をかけてくれたそうです。一緒に訓練室に入り、初めて知った言語聴覚士という医療職に、山城さんは大きな興味をもちました。すぐにSTについて調べて将来の目標に決め、「専門教育は地元北海道内の大学で」と本学に入学。卒業後の活躍の舞台には、できるだけ多くの経験を求め、急性期総合病院であり、救命救急センター、ドクターヘリ基地病院、地域災害拠点病院、地域医療支援病院など様々な指定を受けている手稲溪仁会病院を選びました。

毎日動く現場に対応。

お仕事について何うと急性期病院ならではのSTの姿が見えてきます。「朝は7時半には出勤、カルテを確認して8時40分に言葉や嚥下(飲み込み)のリハビリテーションを開始します。急性期ですから動けない患者さんも多く、訓練はベッドサイドが多いですね」と山城さん。現在小児を除き、あらゆる疾患の患者さんを担当しています。



同院の9人のSTのうち6人が本学卒業生。取材時は、ゼミの後輩の福原翠さん(2016年卒)から担当ケースの相談を受けていました。アドバイスをするより、まずは一緒に考えるという山城さんの姿勢が印象的でした。

加えて、多くの時間を割くのが嚥下の評価です。救急車で運ばれて来た患者さんが食事や薬を飲み込めるか、どんな形状なら飲み込めるかを評価することはSTの大切な役割。「全身、呼吸、意識状態、バイタル(血圧や脈拍など)の確認から始まり、のどの感覚はどうか、唾液は飲み込めるか、と進めていきます」。その日の予定に沿って実施するリハビリテーションと、いつやってくるかわからない救急患者。救急から要請がある度に、山城さんは前日組んだスケジュールを頭の中ですばやく組み替えて対応しているといいます。

終末期医療も。

同院は急性期病院なので、山城さんが関わる患者さんはほとんどが2週間から1カ月で回復期病院へ転院します。しかし、同院は地域がん診療連携拠点病院に指定されており、山城さんも研修を受けて「がん患者リハビリテーション料」算定可能なSTになったことで終末期の患者さんを担当することもあります。とくに印象的なケースとして挙げてくれたのは、60代、リンパ腫の患者さん。「生きる」意志が強く、ひどいむくみでほとんど動けなくなっても院内のカフェのコーヒーと食堂のカツ丼を諦めなかったそうです。そこで山城さんは理学療法士、作業療法士、看護師とチームを組んで万全を期して準備し、6人がかりで車いすに乗せ、ご家族と一緒に食堂へ大移動。賑やかな中でカツ丼を堪能した患者さんは、その2週間後に天国へ旅立ち、ご家族がその日撮った映像は最後の団らの思い出になったそうです。「終末期は病状の変化が突然やってきます。短期間で患者さんの希望を叶えてあげられるよう、多職種がスピード感をもって連携し行動する大切さを教わったケースでした」。



就職して2年目の溪仁会グループでの発表に続き、3年目の今年度は札幌市病院学会リハビリテーション部門での発表を控えています。

経験を科学的に。

「平日は仕事一筋」と言う山城さんは、業務終了後の時間は国内外の論文の読み込み、調べ物、学会の発表準備に多くの時間を充てています。とくに注目しているのは、食べることとQOL(生活の質)の関係。飲み込みができず、床ずれができるほど寝ている時間が長かった患者さんが、訓練の結果口から食べられるようになると、床ずれが治り、さらに自分で車いすに乗れるほど回復したケースがあったそうです。「食べることの大切さは経験として誰もがわかっています。いつかそれを数値化して科学的に示したいです」。

スピード感あふれる臨床と、腰を据えた研究、どちらにも患者さんのQOL向上を願う山城さんの思いが詰まっています。



卒業式の1枚。中央が山城さん。いまは全員がSTとして各地で活躍中です。

文化週間

「文化週間を振り返って」

文化局執行部
宮崎 桃子 (心理科学部臨床心理学科 3年)

文化週間とは、文化局に所属している団体が活動紹介や作品展示、演奏などを通して、学生、教職員の方々にそれぞれがどんな活動をしているのを知っていただく企画です。毎年文化の日の前後に行い、今年度は10月30日(月)から11月7日(火)の6日間にわたって開催しました。

吹奏楽団や弦楽部、アカペラ部による総合玄関でのミニコンサートや、カフェ部と茶道部による食堂での模擬カフェ、美術部の作品展示、植物研究部の活動紹介、軽音楽部の部室ライブなど、今年度もそれぞれの団体が特色を生かした素晴らしい発表で学内を大いに盛り上げられたと思います。

文化局に所属している団体の多くは学校外での活動や、部内の活動が中心であるため、学内の皆さんに活動を披露、発表する機会はありません。この文化週間がそれぞれの団体の活動を知り、興味を持っていただける場になれば幸いです。

最後になりましたが、文化週間開催にあたり、無事に終えられたのは参加、協力してくださった皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

■開催内容

| | |
|----------------|---------|
| 軽音楽部 | 軽音LIVE |
| YOSAKOIソーラン祭り部 | 演舞上映 |
| 茶道部 | お茶会 |
| カフェ部 | 模擬カフェ |
| 北海道医療大学吹奏楽団 | 演奏会 |
| 弦楽部 | 演奏会 |
| SF研究部 | 部誌配布 |
| 植物研究部 | 研究発表 |
| 美術部 | 作品展示 |
| Pharm*H | 発表展示 |
| 北海道医療大学ピアノ同好会 | 演奏会 |
| 歯科医療問題研究会 | 研究発表 |
| アカペラ部 | アカペラライブ |



カフェ部



吹奏楽団



美術部

球技大会

「球技大会を振り返って」

小山 桃果 (看護福祉学部臨床福祉学科 1年)

今年の秋季大会は11月7日(火)から11月10日(金)までの4日間開催しました。それぞれの学部、学科の方々に参加していただき、バスケットボール、バレーボールの試合を行いました。4日間とも会場はとても盛り上がり、選手、観客ともにとても楽しんで参加していただくことができました。

最後になりますが、秋季大会に参加、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。



クラブ

今年もたくさんのクラブが各大会で大健闘!

学生会体育局の各団体より4~10月の試合結果が報告され、主として、以下の優秀な成績を残しました。

■2017年度クラブ戦績

| 団体名 | | 月 日 | 大会名 | 参加種目 | 戦 績 |
|-----|----------------|--------|------------------------|-------|-------------|
| 体育局 | 空 手 部 | 7/2 | 第61回全日本空手道選手権大会 | 個人 | 32名中13位 |
| | | 10/8 | 第48回北海道学生空手道選手権大会新人戦 | 個人 | 準優勝 |
| 文化局 | ダンス同好会 | 6/24 | 全道大学最強ダンスバトルアルキタ杯2017 | 団体 | 優 勝 |
| | | 7/3 | UP Draft vol.11 | 個人 | 優 勝 |
| | 北海道医療大学吹奏楽団 | 8/6 | 全日本吹奏楽コンクール北海道予選札幌地区大会 | 一般小編成 | 銀 賞 |
| | YOSAKOIソーラン祭り部 | 6/7~11 | 第26回YOSAKOIソーラン祭り | 団体 | ファイナル進出 優秀賞 |

大学祭実行委員会

九十九祭を振り返って

大学祭実行委員会委員長

松田 明花 (リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科 3年)



九十九祭は今年で39回目を迎え、多くの方々のご協力により、無事終了することができました。まずこの場をお借りし、九十九祭にご協力いただいた学生や教職員の皆さんをはじめ、関係企業ならびに協賛していただいた企業の皆さん、当別町の皆さん、そして九十九祭にご来場いただいた皆さんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私達大学祭実行委員会は既存の企画はもちろん、新たな試みを取り入れ

つつ、準備してきました。今回は前夜祭の花火を、音楽花火というものにしました。今年初の試みでさまざまな困難もありましたが、皆さんからご好評をいただきました事を嬉しく思っています。本祭当日は2日間ともに風は少し強く感じられましたが、晴天に恵まれ、毎年行っているスタンプラリーや出店だけでなく、17日(土)に行われた謎解きゲームや、校内で行っている学内発表、グラウンドで行っているソフトボール大会を見ていただくにはとても良い日和でした。また、特にステージイベントでは、ゲストさんの集客効果が大きく、例年を上回る盛り上がりを見せました。

企画や準備段階では困難や失敗が多く、苦労もあった第39回九十九祭ですが、反省を生かし来年の大学祭に向けての準備を進めています。関係者の皆さんには、変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。これからも私たち大学祭実行委員会と九十九祭をよろしくお願いたします。

本学歯学部が同済大学(中国)サマースクール「Tooth Carving Competition」で3位に入賞

歯学部間で学術交流協定を結ぶ同済大学において8月6日(日)から8月11日(金)の日程でサマースクールが開催され、本学歯学部3年生の横山真子さんが研修に参加しました。

研修中に行われたTooth Carving Competition(中国標記: 雕牙 大賽、日本標記: 歯型彫刻の大会)では3位に入賞し、その後優秀な生徒としても表彰されました。



横山真子さん

本学歯学研究科の大学院生が学会賞を受賞

8月26日(土)に、北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターで開催された第84回日本細菌学会北海道支部学術総会において、「Oral Veillonella Profiles in Saliva of the Children with Different Oral Hygiene Statuses and Their Phylogenetic Diversity」という演題で、研究成果を発表した本学大学院歯学研究科微生物学分野のCitra Frangantia THEODOREAさん(第3学年)が、北海道支部会賞(第3位)を受賞しました。

ヒト口腔内における新菌種が存在を、遺伝子の塩基配列を用いて証明した精度の高い研究内容と分かりやすく丁寧なプレゼンテーションが高く評価されました。また、これまでの同学会では、毎年多くの海外留学生が発表しているのですが、留学生の受賞は、今回のCitraさんが初めてとなります。Citraさんは「この受賞を励みに、更に優れた研究に挑戦したい」と語っていました。



嫌気性細菌培養装置で実験するCitraさん

YOSAKOIソーラン祭り部が学長へ受賞報告を行いました

6月7日(水)から開催された「2017年第26回YOSAKOIソーラン祭り」において、見事ファイナル進出・優秀賞を受賞した、本学YOSAKOIソーラン祭り部(チーム名「THE☆北海道医療大学」)の代表メンバーが、浅香正博学長へ受賞報告を行いました。

同部代表の澤田忍さん(薬学部3年)より、受賞報告と今後の活動に向けての抱負を伝え、浅香学長からは、同部に対し今般の榮譽を称え、激励の言葉がありました。

また、6月17日(土)から開催された北海道医療大学大学祭「第39回九十九祭」においても、同部は演舞を披露しました。



2017 SCP(学生キャンパス副学長)任命式が行われました

9月27日(水)、2017 Student Campus President(学生キャンパス副学長: 通称SCP)任命式が行われました。各学部から、選挙により選出された学生に対し、浅香正博学長からSCP任命状と専用プレザーが手渡され、激励の言葉をいただきました。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を行い実施する、全国でもめずらしい北海道医療大学独自の制度です。

SCPの多岐にわたる活動内容は、全国から注目されています。



2017
SCP

薬学部 1年 安田 彩夏

歯学部 2年 橋谷 怜奈

看護福祉学部 2年 石黒 和彦

心理科学部 2年 石田 千典

リハビリテーション科学部 2年 田中 優輝

SCPホームページ

<http://scp.hoku-iryu-u.ac.jp/>

極東国立総合医科大学(ロシア)との 合同医療シンポジウムを開催

7月10日(月)に総合図書館大会議室にて、本学の協定校である極東国立総合医科大学からMarina Fleishman教授、Elena Sazonova教授、Aleksandr Iurkevich教授、Valerii Zavgorudko教授、Natalia Solomenko教授の5名を招き『合同医療シンポジウム』を開催しました。浅香正博学長による開会挨拶に始まり、後援をいただいた北海道より辻泰弘副知事、在札幌ロシア連邦総領事館Sergey Konyaev三等書記官より開会にあたりご挨拶をいただきました。

シンポジウムではMarina Fleishman教授・中央科学研究所長による講演に始まり、午前中に薬学セッションを行い、午後には歯学セッション、リハビリテーション科学セッションの順に順調に進行し、各セッションにおいては意欲的な意見交換が行われ、盛会のうちに終了しました。

最後に浅香学長より極東国立総合医科大学の5名の先生に記念品等が手渡されました。



国立ルブリン医科大学歯学部(ポーランド)と 本学歯学部との間で学部間協定を締結

7月24日(月)、国立ルブリン医科大学よりBarbara Tymczyna歯学部長、Izabela Witkowskaコーディネーターの2名が来日し、本学歯学部との間で学部間協定を締結しました。

浅香正博学長と今後の歯学部間の交流について協議し、引き続き開催された調印式では、Barbara Tymczyna歯学部長と本学齋藤隆史歯学部長との間で協定書を交換しました。

調印式後に行われた大学院セミナーでは、Izabela Witkowskaコーディネーター、Barbara Tymczyna歯学部長の順にご講演をいただき、教員・大学院生が多数参加し盛会のうちに終了しました。



アルバータ大学(カナダ)と学術交流協定を更新

8月10日(木)、安彦善裕国際交流推進センター長と国際交流課 戸根谷幸恵職員がカナダのアルバータ大学を訪れ、語学研修引率中の看護福祉学部ハワード・ターノフ教授とともに学術交流協定更新式に出席しました。

更新式には、アルバータ大学より、エクステンション学部長のKaty Campbell教授、語学研修担当マネージャーのMimi Huiさん、語学研修担当スタッフのMark Bellさん、他4名のエクステンション学部教員と語学研修中の本学学生12名が参加しました。

アルバータ大学とは、1992年の大学間協定締結後、今回5度目の協定更新となり、今後、益々の交流が期待されます。



EDITOR'S NOTE

1年はどれぐらいに感じていますか。人は歳をとると1年が短く感じると言いますよね。これは19世紀のフランスの哲学者ポール・ジャネが主観的に記憶される月日の長さは年少者にはより長く、年長者にはより短く評価される「ジャネーの法則」として心理学的に説明したとされています。私も年々1年が短く感じてきました。幼児の我が子は毎日初めての体験ばかりで長い1年を過ごしているのでしょうか。学生の皆さんの1年はいかがでしょうか？ 講義、実習、試験、部活、仲間との交流等でまだまだ長い1年を過ごしているのでしょうか？ 教職員の皆さんも年々短い1年になってきているのではないのでしょうか？ 短く感じると年長になったと嘆くのではなく、毎日の少しずつの努力・勤勉・団結で毎年記憶となる成果・結果を残し成長できたらと思います。健康も研究も日々の積み重ねが大切ですので北海道医療大学全員で頑張れたらと思います。

収穫の秋も終わり冬が近づくと、お体にお気をつけてお過ごしください。

(Y・N記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.168

STAFF ● 遠藤 泰 浜上 尚也 仲西 康裕 松田 康裕
遠藤 紀美恵 志渡 晃一 金澤 潤一郎 澤田 篤史
本家 寿洋 柳田 早織 大山 静江 杉谷 昌彦
宮川 雄一 小林 伶 園部 望未

発行日 ● 2017年11月

編集・発行 ● 北海道医療大学広報部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎0120-068-222
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしています。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。